

学校運営評価

R4年度 年度末評価

評価尺度

5:よい 4:ややよい 3:普通 2:やや不十分 1:不十分

2023.1

評価項目	令和3年度 平均値	令和3年度 力テリ 別平均値	令和4年度 平均値	令和4年度 力テリ 別平均値	評価の視点 □:「3」普通のレベル ■:加点項目(例示)	年度末評価のまとめ 次年度の課題	
I 学校運営	1	3.9	3.9	3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>□単年度目標を文章化している</li> <li>□目標を教員に周知している</li> <li>■中期目標を文章化している</li> </ul>	教育理念、教育目標をふまえ、年度重点目標を策定している。年度初めに職員教務会議で教職員への周知、意見交換を行っている。 <b>定期的に目標共有する機会を計画する。</b>	
	2	3.9	4.0	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>□単年度目標の評価を実施している</li> <li>□評価結果を教職員に周知している</li> <li>□評価結果を次年度の目標に活かしている</li> </ul>	年に2回目標を評価している。目標達成度を会議で確認し、次年度の目標を教員間で共有している。	
	3	4.0	4.0	3.8	3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>□評価結果を教職員に周知している</li> <li>■改善計画を策定し、改善を行っている</li> </ul>	学校運営評価を行っており、教務会で共通認識をしている。 <b>次年度に向けて教職員で改善計画を策定していく。</b>
	4	3.7	4.0	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>□社会的要請に応えた学校の特色について検討する場がある</li> <li>■教育目標に社会的要請に応えた学校の特色を反映させている</li> </ul>	主体的な学びができるカリキュラムの運営にあたり、教員がチームで指導力の向上に努めている。 <b>学校の特色を再度、明確にして明文化する。</b>	
	5	4.0	4.1	4.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>□会議を定期的実施している</li> <li>□会議の議題を事前に周知している</li> <li>□議事録を整備している</li> </ul>	前期・後期の年2回定期開催している。学校運営委員会との報連相の強化に努めている。	
	6	4.0	3.7	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>□年間の会議日程、議題が明確になっている。</li> <li>□議事録を整備している</li> <li>■事前に資料を配布している</li> </ul>	職員教務会議は年間計画を立て、週一回実施し議事録等の整備はできている。 <b>会議内容、司会の役割、事前準備を再度検討していく。</b>	
II 教育課程・教育活動	7	3.7	3.7	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>□期待される卒業生像を教育目標に表現している</li> <li>■卒業時の到達状況を分析している</li> </ul>	卒業時の到達状況の自己評価は行っているが、詳しい分析までは行っていない。 <b>ディプロマポリシーの成果をルーブリック評価で作成する。</b>	
	8	3.9	3.9	3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>□検討する場を設けている</li> <li>■毎年見直しを行っている</li> </ul>	教育理念・評価目標から一貫性は図れている。新カリキュラムの科目ごとに検討する場が増えている。学生評価4.2 <b>次年度に向けた新カリの評価・修正を行う。</b>	
	9	3.8	3.8	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>□検討する場を設けている</li> <li>■毎年見直しを行っている</li> <li>■評価結果を教育課程に反映させている</li> </ul>	卒業生アンケートや授業アンケートはカリキュラム評価に活用している。新カリにおいては科目によって「主体的な学習時間」が増えている。年度末には教育課程の見直しを予定している。	
	10	3.4	3.9	3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>□検討する場を設けている</li> <li>□内容が具体的、統一的である</li> <li>□授業科目間の調整をしている</li> <li>■毎年見直しを行っている</li> </ul>	毎年見直しを行っている。今年度は事前学習を提示し、学習内容を具体的ににしたが、新カリの1年生の評価は3.9であった。学生評価4.1 <b>学生の意見を確認し活用しやすく修正する。</b>	
	11	3.4	3.4	3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>□1単位(30時間)につき、担当者を3人までにしている(専門基礎分野を除く)</li> <li>■定期的に担当者間の調整をしている(講師交流会)</li> </ul>	旧カリでは公衆衛生は、数人講師になっている。領域別の科目も3名の講師になっている。新カリでは人数・時間数も含めて改善した。 <b>領域ごとに科目担当者の打ち合わせを行い連携を図る。</b>	
	12	3.5	3.7	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>□時間割作成時に教員と調整をしている</li> <li>■学習の順序性を考慮した時間割となっている</li> </ul>	教員がチームで指導力の向上に努めている。新型コロナの影響で非常勤講師の時間割変更が多く、課題の準備などが困難であった。また学内実習が増え、演習室の使用などが重なることがあった。時間割の調整時に担当教員と確認を行う。	
	13	3.7	3.9	3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>□授業(講義/演習)案を検討している</li> <li>■実習指導案を検討している</li> <li>■授業研究を実施している</li> </ul>	授業や学内実習においてチームティーチングで学生の主体性を育てる授業づくりをした。1年生の学生評価3.5は、新カリになり指導方法を変え難易度を上げたためと考える。3年間通しての評価を確認していく。学生評価4.1	
	14	3.8	3.4	3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>□教員は未修了科目の原因把握・分析をしている</li> <li>□学生は自己分析を行っている</li> <li>□分析の結果をもとに、教員と学生が話しあう場を設けている</li> </ul>	再実習4名、学年留め置き1名であった。学生が自己分析できるように指導し、教員も原因把握・分析している。 <b>実習のフォローアップの共有に速やかに入力し、継続的な指導のため定期的に教務会で検討する。</b>	
15	3.9	3.7	4.0	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>□実習先において更衣室やC Fルームがある</li> <li>■実習指導者が固定(1週間程度)した病棟を選択している</li> <li>■教員の専門性が保たれた体制になっている</li> </ul>	地域・在宅実習を開始した。コロナウイルス感染症の影響で院外、院内病棟、施設実習が制限され調整が困難であり、学内実習で対応することも多かった。新カリキュラムにおいて実習指導要項の追加・修正を開始した。学生評価4.3 <b>指導者との連携を強化し、指導体制を整えていく。</b>	

評価項目		令和3年度 平均値	令和3年度カ ゴリー別 平均値	令和4年度 平均値	令和4年度カ ゴリー別 平均値	評価の視点 □: 「3」普通のレベル ■: 加点項目 (例示)	年度末評価のまとめ 次年度の課題
II 教育課程・教育活動	16 学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価が公平性・妥当性が保たれているか	4.0		3.9		□評価基準を書面で提示している □評価方法を学生に説明している	教育要項や実習要項に明記している。実習では中間評価や面談で課題を明確にし、評価の際は評価会を行い妥当性を検討している。学生評価4.1 <b>ルーブリック評価を充実させ、学生も自己分析できるように評価内容を検討する。</b>
	17 実習における患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成し、患者等の同意を得た上で、実施しているか	4.3		4.2		□患者への倫理的配慮に関するガイドラインを策定している □受け持ち患者に説明し、事前に同意を得ている	ガイドラインに沿って事前に同意を得て実習の受け持ち患者をお願いしている。処置や検査等で見学する際は口頭での説明と同意を得ている。学生評価4.6
	18 実習において、学生が関係したインシデント等を把握・分析しているとともに、改善策を講じているか	3.6		3.7		□インシデント等の発生時のマニュアルを作成している □インシデント等の分析をしている □教員、学生が共にインシデントに係る情報を共有している ■学生が関係したインシデントについて、分析及び再発防止に取り組んでいる	朝のミーティングでレベルの高いヒヤットは教員間での共有はできている。その他のヒヤット報告を共有し、分析と対策検討する機会が教務会で予定してある。学生評価4.4 <b>学生が掲示板の活用やクラス内での共有を促す。</b>
	19 実習指導者と教員の役割を明確にしているとともに、実習指導者と教員の協働体制を整えているか	3.9		3.6		□定期的に指導者会を開催している □実習指導者と教員との事前打ち合わせ、事後反省会を行っている ■実習指導者、教員の役割を文書化している	定期的に指導者会を開催し、指導者・教員間の情報共有はできている。新カリに併い、看護実践能力を強化するために指導内容・方法を教員と指導者が実習前に事前に打ち合わせを行っている。実習後は評価会運用マニュアルに沿って行っている。学生評価4.2 <b>修正した実習指導要項の活用と指導者との連携を強化する。</b>
	20 学生による授業評価を実施し、授業の改善に努めているか	4.0		3.9		□専任教員は全員が授業評価を実施している □非常勤講師に対して、協力を依頼している □評価の実施方法が学生の素直な声が反映できるものである □評価の結果をその後の授業・実習の改善につなげている □学生及び実習施設に、結果を伝えている ■非常勤講師も授業評価を実施している ■評価結果を検討し、次年度の課題を明確にしている	次年度の課題が明確になるアンケート内容に修正したが、回収率を上げる取り組みが必要。アンケートの結果から、事前学習の時間が増えたことで主体的な学びを促す授業になっていることがわかる。学生評価4.3
	21 学生指導において、学生に対して人権への配慮がなされている	4.0		4.1		□学生の人権に対するガイドラインを文書化している □学生のガイドラインを周知している	ガイドラインに沿って学生が不利にならないよう、人権を尊重した関わりをしている。看護師として成長させるための丁寧な説明・理解度の確認をして内省できるような教員の学生指導力を高める。学生評価4.1
III 入学・卒業対策	22 より多くの応募者を確保することに努めているか	3.3		3.7		□学校独自のPRを行うなど、積極的に広報している □学校説明会は参加者の利便性(曜日・時間)を考慮して開催している ■募集倍率が、自校でさだめた基準を達成している(3倍以上)	今年度も高校訪問17校、進路ガイダンスに6件参加。学校説明会も感染対策を行いながら対面で行い、在校生と会話する機会も作る事ができた。社会人が学校説明会にも多数参加していたが受験者が少なかった。 <b>大学生や社会人への働きかけを検討する。</b>
	23 国家試験対策に個々の学生にあった指導・援助を実施するなど、教員一丸となって取り組んでいるか	3.6	3.9	3.3	3.7	□国家試験対策のための指導体制をつくっている □前年度不合格者に対して、指導・情報提供を行っている □国家試験の合格者が全国平均合格率を上回っている ■講義・実習の中で学習内容を関連させている ■国家試験の合格率が100%である	サポートが必要な学生は早い段階で介入することができ、最終的に点数も上昇してきた。しかし、担当教員以外からのサポートが得られにくい環境がある。学生評価4.6 <b>教員一丸となってサポートできる体制を検討する。</b>
	24 卒業生の近隣への就職率を高めるよう努めているか	4.0		4.0		□進路指導において、近隣病院などの募集情報を収集し、学生に提供している ■近隣への就職率は60%である ■公立岩瀬病院の求める就職率が100%である	公立岩瀬病院への就職は100%であり、県内への就職率は高く安定している。現在、公立就職8名、県内就職予定14名、県外1名進学2名。進路ガイダンスも学生へ情報提供している。進学者は進路決定していないため、年度末には目標達成できるよう指導していく。
IV 学生生活への支援	25 学生の心身面での健康管理体制が整っているか	3.8		4.1		□施設内は完全禁煙になっている □禁煙教育をしている □健診の再診率が80%以上 □適宜、校医(学院長)と情報交換をしている ■カウンセラーの存在、役割を学生に周知している	カウンセラーに必要に応じてカウンセリングを受けることができるシステムになっているが、満足度調査では全体で3.9であった。身体面では健診を行い、再診者の確認などを継続して健康管理を支援している。学生評価3.9 <b>学生が求める支援について、追加調査を実施し分析を行う。</b>
	26 学生生活、進学、就職に関して学生の相談に充分応じているか	4.0	3.6	4.1	3.9	□奨学金、アパートなど経済的支援の相談に応じると共に、情報を提供している □奨学金等の資料を整備している □キャリア支援プログラムができている □進学、就職に関して相談に応じると共に、情報を提供している □進学、就職のための面接・論文指導を行っている	コロナの影響によって奨学金給付も利用できるため、学生の相談に応じて情報提供を行っている。キャリア支援は今年度よりカリキュラムに盛り込まれた。進学・就職に関しては、学生に合わせ対応している。学生評価4.0
	27 前年度の卒業生の就職先での評価を把握し、問題点を明確にしているとともに、その対策を講じているか	3.5		3.6		□学生が卒業後も相談しやすいように窓口などを整備し学生に周知している □卒業生に図書室などの設備を開放している ■就職先での評価を把握している	求人募集で卒業生の現状を把握できる機会がある。コロナの影響もあり、卒業生との交流が少ない。卒業生のアンケートは回答が得られなかった。当院の新卒生の評価を受けて、低学年のうちから知識だけでなく、主体的で自立した看護師育成を重点目標にしている。 <b>個別で支援が必要な学生を情報共有し、教員一丸となって支援する。</b>

評価項目		令和3年度 平均値	令和3年度カ テゴリ別 平均値	令和4年度 平均値	令和4年度カ テゴリ別 平均値	評価の視点 □: 「3」普通のレベル ■: 加点項目 (例示)	年度末評価のまとめ 次年度の課題
V 管理運営・財政	28 予算計画、年間授業計画を策定し、適正な予算の執行・進捗管理を行っているか	4.1		4.2		□計画的に設備整備などを行っている □授業料の滞納がない ■経費の節減対策を行っている	予算は適正に執行・管理できている。計画的に設備整備を行っている。相談に応じ分割手続き体制などをとっている。
	29 学生・非常勤講師や教職員の個人情報の保護について、考慮しているか	4.0		4.0		□個人情報保護のガイドラインを文書化している □学生・教職員に周知している	学生便覧に記載をし、オリエンテーションで指導している。だがSNSの取り扱いで指導することがあった。今後もSNSの取り扱いについては指導の強化が必要。学生評価4.4
	30 災害など非常時の危機管理体制が整っているか	3.9	3.9	3.9	3.9	□防災マニュアルを作成している □防災訓練を年1回実施している □毎年、防災マニュアルの見直しを行っている	年2回の防災訓練の実施。防災マニュアルの作成あり。非常時の食料と電源も準備されている。学生にも防災用品の準備など指導している。学生評価4.5
	31 学校運営などに学生の意見が反映されているか	3.3		3.2		□学生の意見・要望を聞く機会を持っている □意見要望について教務会で対応策を検討している ■意見要望及び対応について、学生に公表している ■意見要望を積極的に受ける体制を作っている	意見箱を設置し、学生に意見や要望を聞いているが、要望がない。アンケートだと意見が出る。学生自治会活動などが再開され、状況に合わせた指導に学生の戸惑いがあるようだ。学生評価3.8 <b>学生からの要望や意見を積極的に聞くとともに、教育的対応をする。</b>
VI 施設設備	32 校舎は、耐震性に優れ、バリアフリーなどに配慮された構造になっているか	2.9		2.7		□耐震基準をクリアしている □車椅子での移動が可能なスロープを設置している □障害者用トイレを設置している	耐震性は年1回調査しており基準は満たしているが、バリアフリー化は全くされていない。老朽化のトイレは階ごとに修繕計画が進んでいる。玄関ドアの修繕も予定している。
	33 教育目標達成に必要な施設、設備及び新しい教材が整っており活用されているか	4.0	3.3	3.8	3.3	□教育内容にふさわしい教材を整備している □図書は、計画的に新刊書を購入している □学生の自主学習のために、教材や設備を活用させている ■PCは、授業時に一人一台使用できるよう整備している	図書やモデルなど計画的に購入している。メディカルコンソールの追加購入や劣化が見られているモデル・備品の購入を行い整備されている。学生評価4.0
	34 学生のために、休息、親睦及び交流等を行うためのスペースが設けられているか	3.5		3.3		□自由に使用できるスペースがある □クラブ活動などできる場所がある	限られた施設の中で使用している。部屋に限りはあるが、感染防止を踏まえ全部の部屋・スペースを活用し全学年が使用できるようにしている。クラブ活動などができる場所までの確保は難しい。
VII 教員の育成	35 学生の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っているか	3.5		3.1		□課題に沿った研修を企画している □ほとんどの教員が出席している ■研修内容を教育に活かしている ■他校にも参加の機会をひろげている	学生の課題に合わせ指導の共有はしているが、職場内研修は1回だけであった。 <b>学生の課題を踏まえた研修を企画し、学生指導に活かす。</b>
	36 研修や出張で学会等に参加した成果を他の教員に還元する仕組みがあるか	4.0		3.7		□伝達講習が行われている □伝達講習内容を教育に活かしている	今年度もオンライン研修の開催もあり各教員参加することができていた。書面での報告はしているが伝達講習までは実施できていない。
	37 教員が計画的に臨床看護研修会に参加しているか	3.7	3.1	3.1	3.2	□臨床研修会の参加は20%である ■臨床研修会の参加は80%である	今年度は臨床研修に2名の教員が参加することができた。臨床研修はオンライン視聴での参加がほとんどのため、ほぼ参加することができていた。
	38 教員が計画的に研究調査活動を行っているか	2.7		2.9		□ 教員の20%程度参加している □学内授業を参観できる□教員が計画的に授業研究に参加している ■授業参観後に、活発な意見交換が行われている ■外部者の講評を受けている	ラダー研究に2名がエントリーしており、研究活動を開始し継続している。
	39 教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度があるか	3.6		3.9		□学内授業を参観できる □教員が計画的に授業研究に参加している ■授業参観後に、活発な意見交換が行われている ■外部者の講評を受けている	教員間での授業評価は1名と教育実習生を受け入れ、模擬講義など意見交換を行った。また新任非常勤講師の授業参観も受け入れた。
VIII 広報	40 ホームページは、適時に更新し、見やすくしているか	3.8	3.6	3.3	3.4	□定期的に更新している □部外者が求める情報を掲載している	学校説明会や入試情報についてHPにて掲載を行っている。行事が縮小されていたこともあり学校生活に関しては掲載できていない。学生評価3.6 <b>学院lineやHPの掲載記事を学生に依頼する。</b>
	41 学校運営及び評価の結果を学校関係者以外に、何らかの方法で公表しているか	3.6		3.5		□事業概要、学校案内等を作成している □学校ホームページで公表している	HP上で学校運営評価を公表する準備を整えている。
IX 地域との連携	42 地域社会への貢献の一環として、学校施設を地元開放しているか	3.0		3.5		□特別講演会は、地域住民に公開している □地域に備品などを貸し出している	学校の備品貸し出しの希望に対応している。蘇生モデルを貸し出した。コロナの影響で講演会の公開はできていない。 <b>地域や臨地実習での看護活動を通して、地域への貢献を意識づける。</b>
	43 地域との協力関係が確立されているか	2.9	2.6	3.5		□学校祭に地域が参加している □地域の行事に参加している □地域の小・中・高等学校の総合学習に協力している	今年度は1・2年生で4件のボランティアへ参加をした。今後ボランティアの依頼も増えてくることも考えられる。 <b>地域に参加できる機会に積極的に参加を促す。</b>